

使用ガス：

可燃性ガス アセチレン

支燃性ガス 空気

ランプ：亜鉛中空陰極ランプ

波長：213.9 nm

貯法

保存条件 凍結を避け、冷所に保存する。

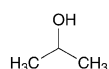
容器 密封容器。

有効期限 製造後 24 箇月。

イソプロパノール

Isopropanol

イソプロピルアルコール



C_3H_8O : 60.10

Propan-2-ol [67-63-0]

性状 本品は無色透明の液で、特異なおいがある。

本品は水、メタノール、エタノール (95) 又はジエチルエーテルと混和する。

本品は燃えやすく、揮発性である。

確認試験

(1) 本品 1 mL にヨウ素試液 2 mL 及び水酸化ナトリウム試液 2 mL を加えて振り混ぜるとき、淡黄色の沈殿を生じる。

(2) 本品 5 mL に二クロム酸カリウム試液 20 mL 及び硫酸 5 mL を注意して加え、水浴中で穏やかに加熱するとき、アセトン臭を発生し、発生するガスは、サリチルアルデヒドのエタノール (95) 溶液 (1 → 10) 及び水酸化ナトリウム溶液 (3 → 10) で潤したろ紙を赤褐色に変える。

比重 d_{20}^{20} : 0.785 ~ 0.788

純度試験

(1) 溶状 本品 2.0 mL に水 8 mL を加えて振り混ぜるとき、液は澄明である。

(2) 酸 本品 15.0 mL に新たに煮沸して冷却した水 50 mL 及びフェノールフタレイン試液 2 滴を加え、これに 0.01 mol/L 水酸化ナトリウム液 0.40 mL を加えるとき、液は赤色を呈する。

(3) 蒸発残留物 本品 20.0 mL を水浴上で蒸発し、残留物を 105 °C で 1 時間乾燥するとき、その量は 1.0 mg 以下である。

水分 0.75 w/v% 以下 (2 mL, 容量滴定法, 直接滴定)。

蒸留試験 81 ~ 83 °C, 94 vol% 以上。

貯法

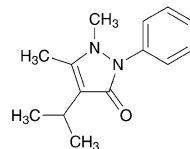
保存条件 火気を避けて保存する。

容器 気密容器。

イソプロピルアンチピリン

Isopropylantipyrine

プロピフェナゾン



$C_{14}H_{18}N_2O$: 230.31

4-Isopropyl-1,5-dimethyl-2-phenyl-1,2-dihydropyrazol-3-one [479-92-5]

本品を乾燥したものは定量するとき、イソプロピルアンチピリン ($C_{14}H_{18}N_2O$) 98.0 % 以上を含む。

性状 本品は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味はわずかに苦い。

本品は酢酸 (100) に極めて溶けやすく、エタノール (95) 又はアセトンに溶けやすく、ジエチルエーテルにやや溶けやすく、水に溶けにくい。

確認試験

(1) 本品の水溶液 (1 → 500) 2 mL に塩化鉄 (III) 試液 1 滴を加えるとき、液は淡赤色を呈し、更にこの液に硫酸 3 滴を加えるとき、微黄色に変わる。

(2) ヘキサシアノ鉄 (III) 酸カリウム試液 5 mL に塩化鉄 (III) 試液 1 ~ 2 滴を加え、これに本品の水溶液 (1 → 500) 5 mL を加えるとき、液は徐々に暗緑色を呈する。

(3) 本品の水溶液 (1 → 500) 2 mL にタンニン酸試液 2 ~ 3 滴を加えるとき、白色の沈殿を生じる。

融点 103 ~ 105 °C

純度試験

(1) 塩化物 本品 1.0 g を希エタノール 30 mL に溶かし、希硝酸 6 mL 及び水を加えて 50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液は 0.01 mol/L 塩酸 0.40 mL に希硝酸 6 mL, 希エタノール 30 mL 及び水を加えて 50 mL とする (0.014 % 以下)。

(2) 硫酸塩 本品 1.0 g を希エタノール 30 mL に溶かし、希塩酸 1 mL 及び水を加えて 50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液は 0.005 mol/L 硫酸 0.40 mL に希塩酸 1 mL, 希エタノール 30 mL 及び水を加えて 50 mL とする (0.019 % 以下)。

(3) 重金属 本品 1.0 g をアセトン 25 mL に溶かし、希酢酸 2 mL 及び水を加えて 50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液は鉛標準液 2.0 mL に希酢酸 2 mL, アセトン 25 mL 及び水を加えて 50 mL とする (20 ppm 以下)。

(4) ヒ素 本品 1.0 g をとり、第 3 法により検液を調製し、装置 B を用いる方法により試験を行う (2 ppm 以下)。

(5) アンチピリン 本品 1.0 g を希エタノール 10 mL に溶かし、亜硝酸ナトリウム試液 1 mL 及び希硫酸 1 mL を加えるとき、液は緑色を呈しない。

乾燥減量 0.5 % 以下 (1 g, 減圧, シリカゲル, 5 時間)。